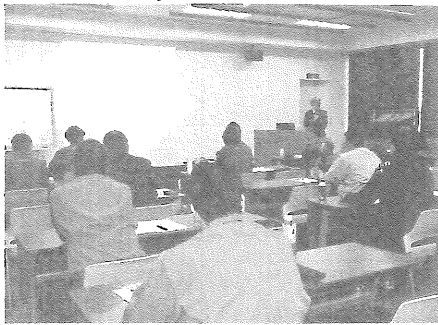


日測協道支部 地理空間セミナー

最新技術動向など学ぶ

釧路での開催は3年ぶり

【釧路発】日本測量協会北海道支部（橋本幸支部長）は29日、釧路市内の建設会館で「地理空間情報セミナー」測量・地理空間情報技術者のためのアドバンセミナーを開催した。写真。札幌や釧路、帯広の会員企業の技術者17人が参加し、五つの講義を受講。最新の技術動向や技術



を生かすためのスキル、品質確保のための取組など様々な情報について見識を深めた。日測協では、技術力向上に向けたセミナーを全国18カ所で毎年開催しており、釧路でのセミナーは3年ぶりの開催となる。今回のプログラムは①測量技術講習等の概要②近年、気になる地理空間情報技術と周辺領域③技術提案書作成に向けた取り組み④測量技術者が上位資格を取得するために⑤公共測量成果の品質確保の5講座。①については測量技術教育部の桑原毅次長、②③は白

井直樹常任参与、④は瀬戸島政博顧問、⑤は道支部の小枝登技術センター長が講師を務めた。

開会に先立ち、あいさつに立った桑原次長は「社会情勢が大きく変化している中で、レベルアップや知識向上の一助になれば」と話し、新しい気付き、学びのあるセミナーになることを祈念した。

引き続き、桑原次長が講義。測量業界を取り巻く動向と測量技術講習会等の概要について、測量・地理空間情報関連の最近の話題として、4月に改正された測量法における担い手確保の取組や、測位サービスに用いる準天頂衛星システムの体制変化などを解説したほか、同協会が実施する各種講習会を紹介した。

白井常任参与は、地理空間情報技術の変遷について触れたあと3次元データの取得方法や利活用例を紹介。また、技術提案書作成に向けた事前準備や、作成に当たって必要なスキル、作成の流れを説明し「まずは論理構成力を高めるため、考えて読む練習の繰り返しが大事」と助言した。瀬戸島顧問は「要素系と

事業系の技術資格が求められる」とし、技術資格の必要性や試験内容などを説明。小枝センター長は品質確保の重要性を訴え、機器検定・成果検定の内容等を紹介した。受講者は真剣な面持ちで耳を傾け、5時間に及ぶ講習を修了。技術向上や品質確保のため見識を深めた。